

平成26年度技術審議会 議事要旨

日時：平成26年7月30日（水）15:00～17:30

場所：ホテルグランピア大阪20F

出席：委員長：大西有三（京都大学名誉教授）

委員：宮川豊章（京都大学大学院工学研究科教授）

松山隆司（京都大学大学院情報学研究科教授）

小林潔司（京都大学経営管理大学院教授）

朝倉康夫（東京工業大学大学院理工学研究科教授）

[代理] 舟木剛（大阪大学大学院工学研究科教授）

依田高典（京都大学経営管理大学院教授）

議事：

- 1．会社挨拶
- 2．会長挨拶
- 3．委員紹介
- 4．議事要旨確認
- 5．阪神高速の概要について
 - ・事業計画概要
 - ・阪神高速の技術戦略（2013）
- 6．各技術委員会の活動状況
 - ・構造技術委員会
 - ・交通技術委員会
 - ・電気通信技術委員会
 - ・長期維持管理技術委員会
- 7．新たな展開を目指した研究開発について
 - ・阪神高速道路におけるデータの活用と課題
 - ・革新的BCPへの挑戦
 - ・アライアンスによる共同研究等
- 8．その他
- 9．閉会挨拶

主な意見：（ ： 阪神高速からの回答）

（ 阪神高速の技術戦略 2013 ）

- ・ 非管理職の 30 代、40 代から選定したメンバーによる技術継承プログラムについて、阪神高速の技術継承が行われて成果を生むことを期待する。
- ・ お客様へのサービスを見据えた技術という観点も取り入れて戦略を立てるべきである。
外部環境の変化に対しては技術戦略の上位にあるビジョンを含めて逐次見直しをかけながら、技術戦略を更新していくことを予定している。
- ・ 人口減少に伴うお客様の変化や交通量などの交通環境の変化も想定しながら、技術戦略を立てていくことが重要である。また、阪神高速が阪神地区における人口や交通環境に影響を与えるように活動することが重要であり、活力をもたらすための貢献という視点を盛り込むと良い。

（ 各技術委員会の活動状況 ）

- ・ 技術審議会で何を審議すべきかなどの審議会としての役割を明確にし、有意義な成果が得られるしくみづくりを行う必要がある。
- ・ 各委員会の連携を図るとともに、この技術審議会の強みを活かした取組みを行うべきである。分野を横断するような検討を期待する。
- ・ 各委員会で分担して審議している技術の領域が、阪神高速における技術の領域を全て包含しているのか確認することが必要である。
- ・ 現在行っている検討は物に対する検討が多いが、もっと人に対する検討や人から得る情報を活用する検討を積極的に行うべきである。他団体では人とのコミュニケーションツールを用いた検討を行っており、最新の技術に関する検討を行ううえでは、これらの検討に着手すべきである。
- ・ 電源確保の観点から、津波による浸水高さの想定については詳細な検討が必要である。
検討としてはまだ不十分な点があることから、引き続き検討を行っていくことを予定している。
- ・ ITS スポットについては、国が主導で取り組んでいるテーマではあるが、阪神高速独自の視点による取組みも必要であると思われる。

（ 新たな展開を目指した研究開発について ）

- ・ 料金変化に伴うお客様の行動変化に関する分析はさらに進めるべきである。この分析による知見を蓄積し、阪神高速の利用者に役立つ検討を行うべき。
- ・ ビッグデータを有効活用する試みで重要なのは、データの体系化とその結果の活かし方である。マネジメントの効率化という視点でデータを整理することが必要である。
- ・ 衝突防止装置などにみる自動運転技術などの開発状況を踏まえて、高速道路側の走行安全性などの検討を行っていく必要がある。

- ・ 阪神高速が生き残っていくためには、地域の方に愛される高速道路になる必要がある。そのためには、人へのアプローチをもっと検討することが重要である。

以 上